

2025年度 清泉大学

人間学部 心理コミュニケーション学科

一般選抜〈個別試験方式〉A日程

現代の国語・言語文化

*試験終了後、この問題用紙は回収いたします。

第1問

問1 次のア～オの文の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ア 他国からの客をゲイヒン館に招く。
- イ 地域の里山を仲間とサンサクする。
- ウ 病状が急変してキトクとなる。
- エ 専門家から貴重な知見をサズかる。
- オ すんでのところで難をマヌカれる。

問2 次のア～オの文の傍線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ア 新たな国家が勃興する。
- イ 医学について造詣が深い。
- ウ 腕から血が滴る。
- エ 朗らかな人柄に惹かれる。
- オ 市議会議員候補に推す。

問3 次の熟語の対義語として最も適当なものを後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

「質素」

- ① 広大
- ② 高額
- ③ 華美
- ④ 荘厳
- ⑤ 流麗

問4 次の熟語の類義語として最も適当なものを後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

「考察」

- ① 謀議
- ② 詮索
- ③ 批評
- ④ 検討
- ⑤ 検閲

問5 次の①～⑤のうちから謙讓表現ではないものを一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 下知
- ② 承知
- ③ 拙者
- ④ 愚息
- ⑤ 拝領

問6 次のことわざと同じ意味のことわざとして最も適当なものを後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

「青天の霹靂」
へきれき

- ① 知らぬが仏
- ② 住めば都
- ③ 好事魔多し
- ④ すずめの涙
- ⑤ 寝耳に水

問7 次の①～⑤の四字熟語のうちから正しく表記されているものを一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 和洋折中
- ② 論功行賞
- ③ 立心出世
- ④ 落下流水
- ⑤ 優勝劣杯

問8 次の文には含まれない品詞を後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

ああ、もう打つ手は何も残っていない。

- ① 名詞
- ② 副詞
- ③ 連体詞
- ④ 感動詞
- ⑤ 助詞

第2問

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1

から

10

は段落番号を示しています。

著作権の観点から公表していません

著作権の観点から公表していません

(阿部公彦 「集中講義 夏目漱石『文豪』の全身を読みあかす」本文中の明らかな誤植と思われる箇所は修正した)

注1 修善寺：静岡県にある地名。

注2 夏目金之助：夏目漱石の本名。

注3 タカジヤスターゼ：消化剤の商品名。

問1 空欄（ア）～（ウ）に入る言葉として最も適当なものを次の①～⑦のうちから一つずつ選び、番号で答えなさい。

- ① なぜなら
- ② しかし
- ③ しかも
- ④ あるいは
- ⑤ たとえば
- ⑥ つまり
- ⑦ ところで

問2 空欄 A に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つを選び、番号で答えなさい。

- ① 幻想
- ② 装置
- ③ 病理
- ④ 動機
- ⑤ 歴史

問3 [4]に引用されたBの文章の中で、筆者(阿部公彦)が特に重視していると考えられる描写の組み合わせとして最も適当なものを後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

ア 「吾輩の主人は滅多に吾輩と顔を合せる事がない。職業は教師だそうだ。学校から帰ると終日書齋に這入ったぎり殆んど出て来る事が無い。」

イ 「家のものは大変な勉強家だと思っている。当人も勉強家であるかの如く見せている。然し実際はうちのものがいう様な勤勉家ではない。」

ウ 「吾輩は時々忍び足に彼の書齋を覗いて見るが、彼はよく昼寐をしている事がある。時々読みかけてある本の上に涎をたらしている。」

エ 「彼は胃弱で皮膚の色が淡黄色を帯びて弾力のない不活潑な徴候をあらわしている。その癖に大飯を食う。大飯を食った後でタカジヤスターゼを飲む。」

オ 「飲んだ後で書物をひろげる。二三ページ読むと眠くなる。涎を本の上へ垂らす。これが彼の毎夜繰り返す日課である。」

- ① アとイ ② イとウ ③ イとエ ④ ウとエ ⑤ エとオ

問4 傍線部C「この文章の表層の下の深層部」とあるが、「この文章」の本質を説明したものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

① 表向きと内面でずれや矛盾を抱えたまま生きている人間の性質に迫っている。

② 語り手と読者の価値観を同じにすることで読者に共感させ、新たな価値観を構築している。

③ なまけはあまりよろしくないという古くからの道徳観を近代において再確認している。

④ 「胃弱」という病は近代社会においてあらゆる考え方の発端となることを示している。

⑤ 表向きばかりをよく繕おうとする羊頭ようとう狗肉いぬにくな人間を痛烈に批判している。

問5 空欄 D に共通して入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 後援 ② 司令 ③ 査問 ④ 冷遇 ⑤ 呪縛

問6 この文章を内容から序盤（論点の提示）・中盤（論点の具体的考察）・終盤（発展的考察）と三つの部分に分ける場合、中盤および終盤はどこから始まるか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|---|----|---|----|----|---|----|---|----|---|
| ① | 中盤 | 3 | 終盤 | 7 | ② | 中盤 | 4 | 終盤 | 7 | ③ | 中盤 | 4 | 終盤 | 9 |
| ④ | 中盤 | 5 | 終盤 | 8 | ⑤ | 中盤 | 5 | 終盤 | 10 | | | | | |

問7 文章の内容と合致するものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 『吾輩は猫である』は小説として統一感が弱く、作品に求心力を与える要素は「胃弱」であると多くの研究者に考えられている。
- ② 『吾輩は猫である』は実際に「胃弱」だった夏目漱石自身をモデルとするという点で、私小説として再評価すべきだと考えられる。
- ③ 『吾輩は猫である』は近代社会において小説を書くとはどのようなことなのかを世に問題提起するための作品であるといえる。
- ④ 『吾輩は猫である』は主人公に対する皮肉で意地悪な、しかし、多少の寛容さを伴うユーモラスなトーンの猫の語りで進行する。
- ⑤ 『吾輩は猫である』は過労になるとストレスがたまって胃腸を壊すという現在の常識を先取りしていたのだろうと考えられる。

第3問

次の文章は二〇二二年を時代設定に書かれている。これを読んで後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で一部の行頭に行番号を振ってある。

著作権の観点から公表していません

著作権の観点から公表していません

著作権の観点から公表していません

(柴崎友香 「続きと始まり」)

注1 葉子さん：五十代の女性でヘアメイクアップアーティストを本業としながら自宅の一部で写真館を営んでいる。

注2 遥：葉子さんの妹の娘。高校二年生で葉子さんの写真館を時々手伝っている。

注3 南房総：千葉県にある地名。

注4 小津安二郎の映画の佐田啓二：小津安二郎は著名な映画監督（一九〇三～一九六三年）。佐田啓二は小津作品に出演したこともある著名な俳優（一九二六～一九六四年）。

問 1 傍線部 (a)・(b) の本文中における意味として最も適当なものを次の各群の①～⑤のうちから一つずつ選び、番号で答えなさい。

(a) しみじみと

- ① 同性の年長世代に憧れている様子で
- ② 体験を共有できて喜んでいる様子で
- ③ 真摯しんしに対象と向き合っている様子で
- ④ 心の底から深く感じている様子で
- ⑤ 経済的成功をうらやんでいる様子で

(b) 先につながる

- ① 業務の拡張につながる
- ② 男女交際に発展する
- ③ 人間関係が広がる
- ④ 社会的地位が向上する
- ⑤ 社会参加の契機となる

問 2 空欄 (ア)～(ウ) に入る言葉として最も適当なものを次の①～⑦のうちから一つずつ選び、番号で答えなさい。

- ① つい
- ② きつぱり
- ③ にわか
- ④ いちはやく
- ⑤ すっかり
- ⑥ いたずらに
- ⑦ まだ

問 3 空欄 A に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 同期と話す
- ② 有名人に会う
- ③ イベントに携わる
- ④ 人から話しかけられる
- ⑤ じっとして

問4 36行目から41行目までの描写から読み取れる「柳本れい」の考えとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 作品としての写真と仕事としての写真に上下はなく、その比重は人により異なってもよい。
- ② 作品としての写真と仕事としての写真は等価であり、市場価値が相互に変換可能である。
- ③ 仕事としての写真で生計を確立してから作品としての写真に注力するべきである。
- ④ 作品としての写真に集中すれば、いずれ仕事としての写真で生計を確立できる。
- ⑤ 作品としての写真と仕事としての写真を分けて考えては、写真家として失格である。

問5 「柳本れい」は47行目から49行目までの自身の発言に75行目から77行目までの男性の発言を重ね合わせて受け止めている点があると考えられるが、それはどのような点か。その説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 自分には実現することが難しいと感じながらも、自身の理想とする環境に身を置いてみたいと切望している点。
- ② 一人で自宅にこもっているのは孤独であるため、仕事やプライベートを問わず、とにかく外にいたいという点。
- ③ 仕事でもプライベートでも、とにかく新たにいろいろな人と知り合いになって自分の経験を共有したいという点。
- ④ 一人は寂しくていやというわけではないが、たとえ知らない人とでも接することで社会と関わっていたいという点。
- ⑤ 初めは一人がよいと思っていたが、一度社会から隔絶されてみて人との関わり合いの大切さに気づいたという点。

問6 空欄

B

に入るものとして最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 小川さんに触発されて、自分にもできるかもしれない
- ② 小川さんのまっすぐな視線は二十年前と変わらない
- ③ 小川さんのやり方は強引で自分にはまったく合わない
- ④ 小川さんのアドバイスをすぐに実行してみよう
- ⑤ かつての小川さんとはちがう力強さにあふれている

問7 この文章の特徴として**適当ではない**ものを次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 地の文は主に作者の視点から描写されており、会話以外からも人物の考え方などを読み取れるところがある。
- ② 主に「柳本れい」と「小川恵子」の会話で話を展開し、地の文では細かなことは描写せず二人に状況を語らせる形を取っている。
- ③ 「柳本れい」と「小川恵子」の会話では倒置法や体言止めといった表現技法が使われているところがある。
- ④ 「柳本れい」と「小川恵子」の会話ではくだけた口語表現が多く、お互いに対して尊敬語や謙譲語は一切使っていない。
- ⑤ 72行目の「会社の仕事がほぼリモートになって」をはじめ、二〇二二年の世相を具体的に示す描写が複数個ある。